

中学生の学習動機づけと部活動における動機づけの関連

教育デザインコース心理学領域

川中 紫音

1. 問題と目的

部活動はスポーツや科学など、活動内容に親しむことで、学習意欲や自己肯定感が向上すること、生徒や教師が協力して活動に取り組むことで、良好な人間関係が形成されることなどが期待されている(文部科学省,2017)。実際に、部活動へのコミットメントや積極性が高い生徒ほど、学習意欲や学校適応感、学校生活への満足感が高く、友人や教師との関係が良好であることが示されている(藤原・河村,2016; 岡田,2009; 角谷・無藤,2001)。しかし、部活動や学習に対する多様な動機づけを捉えた上で、部活動動機づけと学習動機づけの関連について検討した研究はない。そこで本研究では、有機的統合理論における動機づけに着目し、中学生の学習動機づけと部活動動機づけの関連について検討することを目的とする。

有機的統合理論における動機づけ

自己決定理論(Deci & Ryan, 1985, 2002)の下位理論である有機的統合理論では、活動の価値の内在化の程度(自律性の程度)によって、外発的動機づけを3つに細分化している。外的調整は従来の外発的動機づけに相当し、「お小遣いが欲しいから勉強する」など、報酬の獲得や罰の回避を目的としている。次に取り入的調整は、「試合で勝りたいから野球の練習をする」など、成功による自尊心の拡大や失敗による恥の回避といった、自分の存在価値を維持するために活動に取り組んでいる動機づけである。最後に同一化的調整は、「志望校に合格するために勉強する」など、活動が目標を達成するための手段であると認識されている場合に生じる。

また、内発的動機づけと無動機づけに相当する調整スタイルとして、それぞれ内的調整と無調整がある。内的調整は、「サッカーが面白いから練習する」など、活動自体が目的となっている状態である。無調整は、「英語を勉強したいと思わない」など、活動の価値が見い出せず、活動にまったく動機づけられていない状態である。さらに、行動の始発が内部とされる内的調整と同一化的調整は自律的動機づけ、行動の始発が外部とされる取り入的調整と外的調整は統制的動機づけに分類されている。自律的動機づけは、学業達成や学校適応感などを高める一方、統制的動機づけは、学業不安や学業ストレスなど、不適応な変数と関連がみられている(d'Ailly, 2003; 西村・河村・櫻井, 2011; 西村・櫻井, 2013; Walls & Little, 2005)。

動機づけの階層モデル

好奇心旺盛で、様々な活動に自律的に取り組む学習者もいれば、活動の内容に応じて動機づけが変化する学習者もいる。また、1つの状況の中でも、動機づけは変化する可能性がある。このような様々なレベルの動機づけを捉えるために、内発的動機づけと外発的動機づけの階層モデル(Vallerand, 1997; Vallerand & Lalande, 2011)が提案されている。このモデルでは、個人のパーソナリティの一部として全般的に機能する全体レベルの動機づけ、学習や部活動などの特定の領域で発現する文脈レベルの動機づけ、今この場での動機づけである状況レベルの3つのレベルがあると考えられる。

動機づけの文脈間の関連

階層モデルでは、異なる文脈間で動機づけが転移することが想定されており、Hagger, Chatzisarantis, Culverhouse, & Biddle (2003)は、動機づけの転移について説明するための理論として、自律的動機づけの文脈横断モデルを提案している。このモデルでは、文脈間での動機づけの転移が生じるメカニズムとして、2つのことを仮定している。1つは、自律的動機づけに基づいて活動を行うことでスキーマが形成され、異なる文脈においてもスキーマが活性化されることで、同じような活動に自律的に取り組むことができると考えられている。もう1つは、基本的心理欲求の充足や活動の価値の内在化を通して、異なる文脈間の自律的動機づけの転移が起こると考えられている。たとえば、授業中に自律的動機づけに基づいた行動をすることで、基本的心理欲求が満たされる経験により、その後、異なる文脈でも、基本的心理欲求の充足を目指して、自律的に取り組むことのできる活動を求めるようになると考えられており、実証的知見も蓄積されている(Hagger & Chatzisarantis, 2012, 2016)。

本研究の目的と意義

本研究では、有機的統合理論に基づく動機づけに着目し、中学生の学習動機づけと部活動動機づけの関連について検討する。学習動機づけと部活動動機づけの間に関連がみられれば、いずれか一方の自律的動機づけを向上させることで、もう一方の文脈での自律的動機づけも向上される可能性が示される。すなわち、学習や部活動などに対する自律的動機づけを高めるための支援について示唆が得られるという点で、本研究には意義がある。

2. 方法

調査参加者

首都圏にある中学校 1 校に所属する 1—3 年生 108 名 (男子 52 名, 女子 54 名, 不明 2 名) を対象に調査を行った。このうち, 部活動に所属している生徒 99 名 (男子 47 名, 女子 51 名, 不明 1 名) を分析対象とした。

手続き

副校長と担当教諭に対して研究趣旨を説明し, 協力を依頼した。調査は, 学級担任によって一斉に行われ, 質問紙の表紙には, 質問紙への回答は任意であり, 回答したくない質問があれば飛ばしても構わないことを明記した。また, 調査は無記名で行われ, 部活動動機づけ尺度への回答は, 部活動に所属している生徒のみに求めた。

調査内容

学習動機づけ 西村他 (2011) が作成した尺度を用いた。この尺度は, 外的調整 (「成績が下がると, 怒られるから」など 5 項目), 取り入れ的調整 (「友だちよりも良い成績をとりたいたから」など 5 項目), 同一化的調整 (「将来の成功につながるから」など 5 項目), 内的調整 (「問題を解くことが面白いから」など 5 項目) の 4 因子 20 項目からなる。回答は「1. まったくあてはまらない」から「4. とてもあてはまる」の 4 件法で求めた。

部活動動機づけ 鈴木・荒俣 (印刷中) が作成した尺度を用いた。この尺度は, 無調整 (「活動に参加したくない」など 4 項目), 外的調整 (「活動に参加しないと, 罰を受けるから」など 5 項目), 取り入れ的調整 (「サボっていると思われたくないから」など 5 項目), 同一化的調整 (「活動を通して人として成長できるから」など 5 項目), 内的調整 (「新しい知識や技術を身につけることが面白いから」など 5 項目) の 5 因子 24 項目からなる。回答は「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」の 5 件法で求めた。

3. 結果

まず, 各下位尺度の平均値と標準偏差, α 係数を求めた (表 1)。次に, 学習動機づけと部活動動機づけの各下位尺度間の相関係数を求めた (表 2)。さらに, 内的調整と同一化的調整の合算得点を自律的動機づけ得点, 取り

入れ的調整と外的調整の合算得点を統制的動機づけ得点とし, これらの得点間の相関係数を求めた。その結果, 自律的動機づけ得点の間 ($r = .66, p < .01$), 統制的動機づけ得点の間にはそれぞれ正の相関がみられ ($r = .47, p < .01$), 自律的動機づけと統制的動機づけの間の相関はいずれも有意ではなかった。したがって, 学習に関して自律 (統制) 的動機づけの高い学習者は, 部活動においても自律 (統制) 的動機づけが高い傾向にあるといえる。

4. 考察

本研究の結果は, たとえば部活動の文脈で自律的動機づけに基づく行動を経験することで, 行動スキーマが形成されたり, 学校生活における基本的心理欲求が充足されたりすることで, 学習においても自律的動機づけが高い状態で活動に取り組むようになる可能性を示唆するものである。学習活動と部活動は, 互いに活動内容は異なるものの, 学校内での活動が主であることから, 学校生活における基本的心理欲求が充足されている学習者や, 学級担任や部活動の顧問をはじめ, 在籍校の教師から自律性支援を受けていたりする学習者は, 学習活動にも部活動にも自律的に取り組むようになりやすいのかもしれない。今後, 学習動機づけと部活動動機づけの関連がみられたプロセスを明らかにしていくことで, 自律的な学習者を育成するための実践的示唆が得られるであろう。

表 1 各下位尺度の平均値と標準偏差, α 係数

	平均値	標準偏差	α 係数
学習動機づけ			
内的調整	2.57	0.68	.87
同一化的調整	3.40	0.55	.82
取り入れ的調整	2.48	0.71	.84
外的調整	2.37	0.63	.76
部活動動機づけ			
内的調整	4.04	0.90	.88
同一化的調整	4.07	0.83	.83
取り入れ的調整	2.30	0.91	.76
外的調整	1.63	0.76	.77
無調整	1.85	0.92	.85

表 2 学習動機づけと部活動動機づけの関連

		学習動機づけ			
		内的調整	同一化的調整	取り入れ的調整	外的調整
部活動動機づけ	内的調整	.57 **	.53 **	.22 *	-.21 *
	同一化的調整	.47 **	.62 **	.25 *	-.11
	取り入れ的調整	-.02	.18 *	.47 **	.33 **
	外的調整	-.16	-.02	.28 **	.29 **
	無調整	-.46 **	-.24 *	.03	.27 **

* $p < .05$, ** $p < .01$